

## 平成 25 年度第 1 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| ■日    | 時：平成 25 年 5 月 29 日（水）18：30～21：30 |
| ■場    | 所：市役所西棟 8 階 811 会議室              |
| ■出席委員 | ： 8 名（欠席 1 名）                    |
| ■事務局  | ： 高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会           |

### 1 開会

### 2 委員の委嘱

### 3 自己紹介

### 4 委員長の選出、副委員長の指名

栗田委員より安達委員を委員長に推薦があり、委員長に決定。  
委員長より栗田委員を副委員長に指名し、決定。

### 5 配布資料確認

事務局より配布資料の確認

### 6 議事

#### （1）平成 24 年度運営実績報告

【事務局】平成 24 年度運営実績についてご報告です。補助金の収支についてですが、運営補助金額算定一覧表のとおり、事業計画どおりの補助金額となっておりますのでご確認ください。24 年度単年度収支は、月見路以外は赤字となっております。不足分はすべて前年度からの繰越金で補填をされております。とりわけ、そ～らの家は 173,769 円、花時計は 211,963 円と赤字額が大きくなっています。それぞれの団体の支出の比率も記載されていますが、人件費の占める比率が 60～70%と高くなっています。赤字の主な要因は、当初予定されていたよりもスタッフの人件費部分がかさんでしまった、その分を繰越金で補填しているということです。

【事務局】補助金の交付額については、確定額を 9,946,800 円としておりますが、繰越金が 100 万円を超えておりますので、超過額の 1,322,571 円が市への返還金となっております。実際にあおばの実績としては、3 事業の実績が高かったということです。

【事務局】社会福祉協議会の運営支援内容の説明をいたします。担当職員 2 名を配置し、

事業計画書、実績報告書の作成支援のほか、日常における運営に関する支援を行っています。平成24年度運営支援内容は、7つのテンミリオンハウスの運営委員会、定例会等の出席のほか、運営スタッフ研修会を2回開催いたしました。平成24年度事業決算額（人件費を除く）は301,057円となっております。

## ◇平成24年度運営団体実績報告ヒアリング

### 第1グループ（川路さんち、関三倶楽部、そ〜らの家、きんもくせい）

【委員長】 それでは、初めに川路さんちからお願いします。

【川路さんち】 平成24年度は、お子様たちととても縁のあった年といえます。いつも精華保育園の子どもたちは、1年を通して毎月2回ほど散歩の途中に寄って、手創りのおひな様、こいのぼり、クッキー、芋ほりのお芋を届けてくれたりといった関係が続いています。

そのほか、第五小学校の1年生の2クラスが西久保公園に虫取りの帰りに寄らせてほしいというお申し出がありました。1クラス30人で時間をずらして来てもらい、校歌ほか2、3曲を歌ってくれて、利用者の方々がとても楽しんでいました。秋には近くのけやき幼稚園のお母さま方が、幼稚園とは関係なく企画したのですが、10月終わりのハロウィンで子どもたちが仮装して歩くので、お菓子をあらかじめ届けてくれて、利用者の方々から配っていただくようにしました。約30名の本当にかわいい子どもとご家族がいらして、満員状態でしたが、子どもたちも利用者もどちらも大好評でした。

近くの子が庭に水やりをしたり、花をコーディネートをして植えたり、看板を作ってくれたり、夏休みには手品や音楽をしてくれました。そこで、表彰の推薦をしたら、市の子鳩・けやき表彰の大賞を受けて、みんなで喜びました。

【副委員長】 寄らせてほしいというのは、川路さんちからお誘いや働きかけをした結果なのでしょうか？世代間交流については、25年度はさらに拡大、もしくは続けていこうなど、どういうにされるご予定でしょうか？

【川路さんち】 五小の子たちは、以前は余裕のある時間があって花植えに来てくれていましたが、その時間が無くなったので、子どもたちの訪問が全くなくなっていました。副校長先生にその話をしたら、1年生が近くに行くので寄りたいというお話がありました。25年度は副校長先生が変わり、ぜひ伺わせてほしいとのことでしたので25年度も続くと思います。

けやき幼稚園は、スタッフのご家族が通ってしまして、川路さんちはどうかという話になったようです。

【委員長】 3月末現在の登録者数は何人ですか？認知症の方は何名ですか？

【川路さんち】 3月末は79名で、認知症の方は7名です。

【委員長】 認知症の方は、毎日もしくは定期的に通っている方ですか？

【川路さんち】 来ていらっしやいました。ただ、4月時点で登録をし直していただくのですが、他の施設に替わられた方もいるので、現在は4名か5名になっています。

【委員】 スタッフの皆さんは、どのあたりに充実感を感じられていますか？

【川路さんち】 利用者の方からの「本当にここのスタッフは気持ちのいい人ばかりで、ここに来ると元気になる。」「食事がおいしい。」という言葉で張り切っています。同じやるなら楽しくやりたいと思っています。本当に賑やかで、利用者の方も「笑い声が聞こえると私たちもほっとする。」と言ってくれます。

【委員】 新しくスタッフになりたいという人はいますか？

【川路さんち】 高齢になっているので、1週間に1回でも大変という方が出てくると新しい方に変わっています。人数が多いときは2人態勢では無理なので、予備の方に手伝ってもらおうことを考えています。

【委員】 ボランティアの方もたくさん参加されていますが、そしてスタッフの方も年齢は高めの方たちが、いきいきと活躍されているという印象を受けました。スタッフとボランティアの仕事内容のすみわけどうされていますか？また、行事も積極的にされていて、ビアパーティは210名参加されていますが、広報はどうされていますか？

【川路さんち】 ビアパーティは、25年度からはガーデンパーティに名称を変更しました。広報は社協の「ふれあい」に載せていただくか、ただこちらは1ヶ月に1回、第1日曜日の発行で、1か月前に広報されてしまうので、そういう時は市報を利用しています。1丁目は町会の掲示板があるので、そこにポスターを貼り出したり、2丁目も掲示板にポスターを貼っています。あとは施設の門の前の掲示板にポスターを貼っています。

スタッフとボランティアのすみわけは、主なボランティアはプログラムの講師、パソコンを教えていただいたり、庖丁を研ぎに来ていただいたり。スタッフでも仕事に入っていない日に、買い物をしたり、さらしを買って切って使いやすくして用意したり、端切れの整理をするなど、時間外のものにはボランティアでやっています。

【委員】 登録者は高齢者が79名、平均が82.4歳で、認知症の方もいらっしゃるということですが、介護保険を利用されている方はどのくらいいらっしゃいますか？

【川路さんち】 この前調べましたが、結構増えてきました。初めはお元気だった方が、杖をついて来られたりしています。一番高い方が要介護2、要支援の方は1、2合わせて10人くらいです。

【委員】 要支援を介護保険から外すという話が新聞に出ていましたが、そういう方たちの行き場がなくなるということで、逆に介護保険を使っている方がテンミリに来られなくなるというような制限が出てきたりしないかと。これは市の方針のお話になるかと思いますが、受け皿がなくなった人が行くところがないということは、テンミリオンハウスが受け皿になるということが考えられますが、逆に介護保険を使っている方は介護保険でやってもらうというようなことも起こるのではないかと思います。今後はどうなるかわかりませんが、要支援、要介護の割合もおさえておいた方が良いと思います。

【川路さんち】 登録の時に書いてもらうようにしていますが、要支援の方はお元気で、自分で通ってきているので、あまり心配はないと思っています。

【委員長】では、次に関三倶楽部お願いします。

【関三倶楽部】24年度は前年とほぼ同じ登録者数46名で、1日平均は3.43名でした。デイサービスの入浴希望が増えて、前年度114名のところ、24年度は176名で、ショートステイの方の入浴を加えると年間600回ほどとなりました。家族にとって家での入浴が大きな負担になっていると非常に感じました。

イベントとしては、レッツトライとして、「手打ちそばの会」と「ヨガ教室」を開催し、地域の方に参加していただきました。恒例のクリスマス会は、例年どおりクラシックの方をお呼びして楽しいクリスマス会を開催いたしました。

今年度は今まで年回2, 3回しかショートステイを利用していなかった家族の方が、これからは毎月1度はショートステイを利用したいというご希望が増えて、みなさんととも長寿になり、関三も90代の方が増えていて、ご家族も休息がほしいとつくづく感じる1年でした。

24年度は修繕費がかかってしまいました。やはり10年過ぎると故障するところ、椅子の張り替え等、いつもはかからない修繕費がかなりかかりました。

「介護の困りごとなんでも相談」が只今進行中で、カード、ポスターで皆さんにお知らせしていきたいと考えています。

【委員】ショートステイなどでは、介護保険外のサービスで上手に介護保険の対象の方を支えているのではないかと考えています。ショートステイが混んでいるということもありますが、通常の要介護の方ばかりがいらっしゃるショートステイには行きづらい方がうまく利用されているのでは、と感じています。利用者の特徴や、関三倶楽部だからこそという点について教えてください。

【関三倶楽部】ショートステイは、要介護3～5など重い方が多い。要支援とか要介護1の方だと組み合わせを考えてしまいます。また、家族の方の希望で大きいところに預けるのはいや、病院ばい、おとなしい方は放っておかれることが多く、家族の方の心が痛むという方がいらっしゃった。関三倶楽部は狭さと少人数でスタッフとマンツーマンでしかお相手できず、利用者同士のつながりはほぼ不可能です。マンツーマンで、できるだけ心地よく過ごしてもらいたいと思っています。

【副委員長】相談は進行中とのことですが、まだ相談には来られていないということですね。荒川区に「男性介護者の会」というのがあり、ケアをされる家族のサポートということを意識されていると思いますが、まだゼロというのはどう風に考えればよいのでしょうか？

【関三倶楽部】ポスターはボランティアさんをお願いしていましたが、停滞中です。カードはポスターとともにもうちょっと違う方向を定めたいと思っています。

【委員】これは市と協議した方が良い話だと思いますが、支出の内容を拝見すると修繕費が多いということでしたが、面積に対し、水道光熱費が高く、そ～らの家と同じくらいか

かっています。総額1,000万円、法人からの補助が30万円、その中でやっていくのは、持続可能性としては難しい。市として、修繕費とか水道光熱費といった実費は、市で負担するというのも検討してはどうでしょうか？

【委員】利用者の方は要介護3～5の方が多いいということですが、これは介護保険ではないかと思います。なぜこれが介護保険から支払われないかという発想です。現実的には介護施設として認定されている施設に入るべき収入が入らず、テンミリの規定でテンミリの収入になっています。もしかしたら介護保険の方が収支が合うのではないのでしょうか？

【関三倶楽部】介護保険の方が成り立っていません。私たちがやりたいと思う介護がやりたいのです。

【委員】それを担っているところに対して、テンミリオンハウスだけの補助金でいいのか。その辺のフォローがあっても良いのではないのでしょうか？普通はこれだけ重い人を受け入れていて、介護保険の足りない部分を補っているという意味合いが強いのと思っています。

【関三倶楽部】介護保険の足りない部分は、介護保険の枠組みに入れたら出てこないのではないのでしょうか？

【委員】ショートに行くとおかれて、リハビリも何もやってくれず、落ちて帰ってくるという方も中にはいらっしゃいます。むしろ小規模、もしくは小規模で非常に多機能なものを作るとかを考えなくてはならないと思いますが、補ってくれているところに関してはもう少しフォローがあっても良いのではと思います。

【委員】そもそもの発想は、介護保険であるところの事業の特徴が活かされないということです。設置基準、廊下幅、人員の配置基準、規模と状態、ナースが必要といったことになってきて、介護保険の堅苦しいものではなく、フットワークが良く、住民の皆さんの自由な発想で支えあう事業というのが売りと考えていて、それを体現をさせていただいている。逆に、武蔵野がやっているテンミリオンハウス事業、特に関三倶楽部の事業や地方でやっている寄合とか民家改修型のアットホームなサービスは、厚労省が小規模多機能とか新しいサービスを開発した際の参考になっています。しかし、制度に取り入れた途端、味もそっけもない、事業者が入ってこない、小規模多機能は都内でも進行しないものになってしまっています。介護保険が高齢者の生活を地域で支えられないということを証明する武蔵野独自の取り組みと考えています。今のところすぐに介護保険法内の施設に転換した方が良いとはなっていません。

大きな修繕については市と協議して対応しています。テンミリオンハウスの今の評価基準は、基礎的経費の中に敷地面積当たりで施設維持管理の補助が内包されています。軽度な修繕はこの中に含んでいるという理解をしていますので、大規模修繕は市に相談してほしい。

【委員長】それでは、そ～らの家お願いします。

【そ～らの家】昨年4月からメンバーが一新しまして、19名のうち13名が新しい若い方と

なって1年間やってきました。今までいた方は利用者のことがよく分かっているの、フロアをお手伝いいただいています。大きな特色といたしましては、土曜を開所したことです。実績報告書でもわかるとおり土曜開所は大変きつく、人件費もかかります。17万くらいの赤字になっています。頑張ってる数字です。土曜開所によって、普段利用しない方たちの利用が増えました。市内から麻雀とか無農薬野菜の試食会はお子さんにも良いですよとおすすめしたり、男性の料理教室は初めてやってみましたが、いきいきとしている姿を見て、スタッフ一同やって良かったと思っています。

2月末でムーバスの停留所がなくなってしまったので、80歳の方が来られなくなってしまったことが残念だと思っています。歩いて行きたいが、南町1丁目の方なので駅から歩いてくるのは難しい。レモンキャブという方法もありますが、やはり一番手軽に来られたのは、やはりムーバスではないかと思っています。

水曜日のコーラスが好きな方が多く、指導者もPTAコーラスや町内会コーラスをやっている方で、先日の日曜日、レディーススカイという名前でデビューしました。東町町内会の方とコラボして、2時間で8曲。ご家族にも来ていただきたいと思っていましたが、実際には100名ほど来てくださりまして、プログラムも足りなくなるほどで、嬉しい悲鳴を上げました。コラボした方も高齢なので、お互い励ましあっていい音楽会ができたと思っております。プログラム、チラシは自分たちですべて作成しました。

3月に高架下に高齢者と保育の施設ができましたが、営業しているのかしていないのか全くわからない状態でした。5月になって基本はリハビリをやるということがわかりましたが、利用者がなかなか来てくれないので、施設の方がそらの家にチラシを置かせてほしいとやってきました。小さいお子さんたちが毎日10人以上やってきます。そらの花を見て、花の色を覚えたり、大変微笑ましい姿を見て、何かあればいつでも言ってくださいと言ってあります。転んですりむいてバンドエイドを渡したりして、仲良くやれているのではと思っています。私たちが開所したことを知らなくて、お子さんやチラシを持ってくる人がいて初めて知りました。

【委員】土曜開所によって、高齢者の登録数が96名と増えたようですが、その他というのはどのような方ですか？

【そらの家】土曜の方たちです。麻雀を月2回やっていますが、96名というのは、必ず1週間のうちに1回はいらして下さっている、月1回は必ず来て下さっているという方の人数です。

【委員】33名というのは、65歳以下の方というわけではないのですね。他に比べると高齢者の登録数が少ないのでは？と感じました。

【そらの家】65歳以下というわけではありません。登録者名簿をだいで整理して、施設に入所したり、亡くなられた方もいて、登録したけど1回も来ない方を除いて、1年見て本来に来てくれる方の数字です。

【委員】スタッフの方がたくさんいて、幅広い年齢層の方が関わっていて、いろいろなア

アイデアも豊富に出ていると感じましたが、スタッフの方を集めるコツがあれば教えていただきたい。また、高齢者の方が集まる場所は、老人クラブもそうですが、年を取られても年寄扱いされたくないというお元気な方も多し、でも本当は必要とされている状態も多いと思いますが、利用者する方に利用していただくためのきっかけづくりで心がけていることがあれば教えてください。

【そ~らの家】スタッフがこんなに若返ったのは、その若い方たちの母親世代を知っていて、そこからこういうことをやりたいけど一緒にやらない？ということで、今もやりたい方が4人ほどいらっしゃいます。最初は食べることで今までと味もちょっと違うということで、10年以上なじんだ味が新しい味になったということで、初めはちょっといろいろありましたが、今は「おいしいわ」と言って食べてくださっています。

南町と東町の老人クラブの新年会にも顔を出して、チラシを一人一人お渡しして見ていただき、質問があればお話を聞いています。

【副委員長】土曜開所を試みられて、その分人件費が増えているようですが、特別な体制をとられていますか？内容として世代間交流をかなり意識されているということですが、土曜のプログラムで世代間交流というときは、メインのプログラムはなんだという風にお考えでしょうか？

【そ~らの家】土曜は最低スタッフ2人は出ています。土曜のお昼は軽食を出していて、普段は厨房に3人のところ、2名でぎりぎりです。慣れない間は施設長、副施設長が交代で出ていて、おかげさまでだいぶ土曜も慣れてきたというのが現状です。スタッフには働いた分はきちんと払いたいが、土曜開所した分でスタッフに払えるほどではありません。

子どもはリズムックをやったり、「無農薬野菜を食べよう」の時は親子でどうぞ、紅茶教室もお子さん連れで大丈夫ですよ、とお知らせしています。行けないと思っている方たちが、一回参加すると、赤ちゃん連れでお昼を食べに行っても良いですか？という風に、少しずつでも広がっているのではないかと思います。

【委員】スタッフが大幅に入れ替わったということで、1年運営されて、スタッフの方の気持ち、嬉しい、良かった点、特に入れ替わったスタッフの満足度はいかがですか？どういったところに満足感を得ているのでしょうか？

【そ~らの家】若返ったことで活気が出ました。おそらく利用者もパワーをもらっていると思います。そしてやるのがスピーディーになりました。今までも一生懸命やってきましたが、やはり若さはすごい。コミセン便りや市報に載せると南町東町だけでなく、西の方からもたくさん見えて、そ~らの家の行き方から説明しなくてはならず、出た後の1週間は問い合わせが多く、電話が鳴りっぱなしという状態です。

【委員】スタッフはどんなところに満足を得ているのでしょうか？

【そ~らの家】とてもやりがいを感じています。最初は高齢者の方に接する言葉かけ、味付けが難しいということもありました。薄味が良いのではと思ってそうしたら、味がしないと言われたこともありました。非常にチームワークが良く、その雰囲気を感じているの

かスタッフに入りたいという人が多い。今は間に合っている状態です。

【委員】事業の中で、利用者向けと地域住民向けがあり、かなり地域住民向けを多くやっています。その中で中学生の職場体験と他にはない三小教員育成研修受け入れというのは、地域住民向けにどういうことをされているのでしょうか？

【そらの家】中学2年生になると職場体験というのがあって、市内でも日数はいろいろですが、三中は1日で、1日だと覚えたころには終わってしまうので、どうにか日数を増やしてもらえないかということで、3日になった。3小の先生方で新人の方に福祉を体験させたいということで、1日ですが、水撒きをしたり、高齢者とお話しをして非常に良い体験ができたと言っています。相手がどこだからということであまり断ることはないで、どんどん来ていろいろなところを見てほしい。プラス思考で考えたいと思っています。

【委員】以前見学をさせていただきましたが、入浴サービスがなかなか充実できないように思えますが、何か手立ては何かありますか？

【そらの家】昨年度は土曜以外は空いた日がないくらいです。1日一人しか入れませんし、男性だから2人一緒というわけにもいきません。厨房を使っている間は使えないので、2時以降しか使えません。その中で視覚障害者の方もいらっしゃいましたし、施設に入った方がいるので今はお一人のみで、週2、3回です。

【委員】実施日数299日で、入浴サービスは124日だったので、毎日ではないのでは？

【そらの家】土曜はやっていませんが、月～金までほぼ毎日です。電気代、水道代は他に比べるとぐっと金額的に幅がある。お風呂も大きく、その都度入れ替えるので、水道代も相当かかります。本来200円では賅っていけない。お風呂屋さんも450円です。値上げも視野に入りたいが喜んで入ってくださる方を見ると、今年も200円でやっていこうと思っています。

【委員長】ソーラーシステムは連動しているのでしょうか？

【そらの家】売電はしていますが。さわやかな風を入れこむ4月くらいしか売電はできていません。屋根の一部がソーラーというだけなので。

【委員長】では、次にきんもくせいの方をお願いします。

【きんもくせい】24年度は、5、6月にかけて耐震補強工事を行いました。おかげさまで、安心して使用しています。ただ、1ヶ月あまり休みましたので、この間、利用者の方に使っていただけませんでした。

6月に武蔵野市でプレ国体の花いっぱい運動がございまして、市からプランター10本、種、土、肥料をいただいたことをきっかけに、小さな庭プロジェクトを立ち上げました。そこで、今年90歳になる利用者の方にボランティアで教えていただくというのを始め、利用者の方、近所の方にも月1回、小さな庭で、花が終わった後に、ホウレンソウや春菊を植えて、それをランチの時に食卓に乗せたり、ボランティアの方がイチゴの苗を持ってき



てくださったので、それを植え、春に実がなった時にデザートで出したりして、皆さん非常に楽しんでおります。

その延長線上で、オレンジピールを作る講座をやっていただいて、利用者と庭のみかんを使って楽しみました。また、近くに独歩の森というところがあって、そのボランティアの本業測量士の方が偶然きんもくせいに見えた時に、小さな庭の遊歩道を見て、そのあと敷石を全部敷き直してくださった。縁側もきれいに作ってくださって、庭がだいぶ整備されてきました。庭が完成した時は、91歳の方を先頭に渡り初めをやろうということで、みんなでぞろぞろと楽しく渡り、大変盛り上がりました。地域の方、ボランティアの方を交えて、イベントという形で盛り上がることのできた1年でした。

【委員】祝日のご利用の特徴はありますか？人数等に変化はありますか？

【きんもくせい】祝日だからといって特に増えるということではなく、パソコン教室があたるとかえって講座をお休みして人数が減ってしまう傾向がある。ただ、月曜日が振替休日にあたると、月曜に麻雀があって、健康麻雀の方は何があっても休まないという傾向があります。週の真ん中の祝日は減り、月曜の祝日は増えるという傾向です。

【委員】認知症サポーター養成講座のことですが、NPOでよくやってらっしゃると思いますが、この頃非常にステップアップしたのがあるようです。さらに上のものを受けてらっしゃいますか？

【きんもくせい】講師を桜堤在宅支援センターの方をお願いしていて、通常、1時間半ほどの講座です。

【委員】だいぶ進んでいるようなので、他のテンミリオンハウスの方にもお願いしたいのですが、できれば再度受けるという形をとっていただきたい。

【きんもくせい】内容的に高度なものをとということでしょうか？それはよく研究しておきます。

【委員長】行事の中で9月8日の映画の日というのは、内容的にはどういうものですか？

【きんもくせい】このときは「菊次郎の夏」を上映しました。

【委員長】施設の中でですか？設備はどうされましたか？

【きんもくせい】スクリーンとプロジェクターを社協からお借りして、DVDは著作権を持っている業者から借りました。著作権料込で3、4万かかるので継続してやるのは難しいと思っています。この時には利用者の方からの要望もあり、投票してもらってリストの中から選んでもらって実現しました。

【委員長】29日のバス研修旅行は有料ですか？

【きんもくせい】武蔵野市の契約しているマイクロバスを使用しました。これは24年度が最後ですが、現地での食事代、高速道路代、保険料等で、ほぼ実費のみで、3000円くらいです。都内に新しく建った建物が多かったので見学が主でしたが、それまでは青梅の日帰り温泉に入り、帰りに農作物の買い物をするといった旅行でした。

【委員】延べ利用者数が5,000人を超えていて、ほかの施設に比べるとスタッフ数が少な

く、スタッフの方の疲労度はいかがですか？

【きんもくせい】一日勤務のスタッフが中心で、半日交代もあります。みんなパワフルでかなり元気なので大丈夫だと思います。

【委員】一日出られるスタッフは何名ですか？

【きんもくせい】施設長と非常勤2人の3名です。

【委員】頻度が高いので大丈夫かなと。

【きんもくせい】食数が多いときは、4名体制のこともあります。

【委員】今の質問と少し関連するかもしれませんが、少人数で利用者のお世話をしているわけですが、外から見た感じだと、お客様に対してサービスしているような雰囲気を受けますが、疲れたりしませんか？もう少し協働的というか同じような目線で助け合ったりするのはどうかと。気にはなりませんか？

【きんもくせい】2年位前まではそういう傾向が強かったです。利用者の方が見えたら、できるだけみんなお出迎えしようとか、帰るときはお見送りしようとかということが多かった。2年位前から、利用者の方は一緒にここを作るということで、お客様にしない、むしろ助け合う形で、みんなで作るきんもくせいという形で、今は利用者の方の声を聞きながらという運営を心がけています。

【委員長】ありがとうございました。それでは第1グループのヒアリングを終わります。

## 第2グループ（花時計、くるみの木、月見路、あおば）

【委員長】それでは、第2グループのヒアリングを始めます。花時計からお願いします。

【花時計】まず初めに、実績報告書の訂正があります。スタッフ体制の3番目、食事担当10時から17時2名アルバイトスタッフというところを10時から14時に訂正をお願いします。

花時計は例年どおり、高齢者、乳幼児親子、児童を主な対象としまして、世代間交流、日本古来の伝統文化を大切にしながら活動してまいりました。花時計の「おもてなしの心を大切に」という理念のもと、気配り、心配りをしながら、利用者にとって常に居心地の良い空間、居場所の提供を心がけ、ひとりひとりきめ細かい対応をしてまいりました。

24年度の重点活動の一つとしまして、「折り紙ウエルカムボード」というものがあります。利用者、スタッフ全員で1年をかけて取り組んでまいりました。講座の始まる前、お食事の後等に、3色の折り紙を利用者さんに折っていただいて、それをスタッフが台紙に貼りつけるという形で完成しました。12月の講座発表会で利用者さんと一緒に除幕式を行い、玄関の脇に取り付けました。自分たちの折った鶴が、あの中に飛んでいるという思いと自分たちで作った喜び、満足感、達成感を味わえる作品となりました。

2番目に在支との共催事業があります。年3回のシリーズで行いました。今年度は東日本大震災をふまえて、「減災」について行いました。広く地域に呼びかけ、多くの方々に参加していただきまして、非常食を一緒に作ったり試食をしたり、災害の備えなどにつ

いて学びました。そこで学んだことの一番は、公に頼るのではなく、自分たち個人ができることは自分でという自助の大切さに気付かされた時間でした。

利用者の分布は、高齢者の 4/5 が境南町在住。1/5 が境、桜堤を中心に広く市内に分かれています。乳幼児は境南が 1/2、あとの 1/2 が境、桜堤を中心にご利用いただいています。

【委員】基本事業で一ぷるといのがあって、乳幼児親子同士の交流の輪というのは、もともと 2 階でそういったことをやっていたのではなくて、あえて目的意識的にこういう事業に取り組んでいるということによろしいでしょうか？

【花時計】立ち上げた当初から 2 階でお子様がお母様と一緒に遊んでいただくという広場を一ぷると呼んでいて、絶えずスタッフが 1 名ついて行っています。

【委員】スタッフの方が新しく 3 名加わったようですが、これは働いてみたいという方がいらっしゃってということでしょうか？

【花時計】23 年度に花時計を利用していたお母様が、お子さんが幼稚園に入ったのをきっかけに花時計のスタッフとして加わりたいというお申し出があって加わっていただきました。後々花時計のスタッフとしてつながっていければよいと考えています。

【委員】そういった母親の方は、どちらかという乳幼児を見たいということですか？それとも高齢者をケアしたいということですか？

【花時計】花時計に最初に入ったスタッフは、調理から始まるということに決まっていて、お母さま方は時間が短いので、最大限 2 時までという範囲で最大限やれる範囲でやっていただいています。

【副委員長】地域的な分布をおっしゃっていましたが、乳幼児と児童は半分半分でしたか？

【花時計】児童は小学生なので境南ですが、乳幼児親子は登録の半分が境南町にお住まいで、あとの半分は境が主で、桜堤、関前等いろいろな方面からです。

【副委員長】桜堤方面の方はどうやって来られるのですか？

【花時計】自転車できたり歩いて来たり。そういう方が食事を申し込まれるときには、雨だったらお休みというようなお申し込みをされるので、雨が降ったから行きませんということもあります。

【副委員長】常連みたいに利用されているということですか？

【花時計】常連という方もいらっしゃいますが、今年度、乳幼児のママたちが職場復帰をなさるので、新しい方がいらっしゃいました。

【委員】世代間交流が前面に出て活動してらっしゃいますが、お子さんと高齢者はあると思いますが、お母さん世代と高齢世代の交流は日常案外少ないと思います。効果的なエピソード等があれば教えていただけますか？

【花時計】高齢者の方々は、講座にいらっしゃる方が多い。乳幼児ママさんは、小さいお子さんが多いので、時間がまちまちで 1 時間だけ来て遊んで帰るとかが多い。ただ、お食事のときは一緒なので、その時に高齢者からお話を聞いたり、ママたちは悩みを話したりすることはあります。

一度一緒にテーブルを囲むと、次にいらっしゃった時にママから声をかけて高齢者の方が大変喜んでます。お子さんの名前をリストアップしている利用者の方がいらっしゃって、新しい方が見えると、名前を聞いてお互いに楽しく過ごしています。

【委員】要介護認定を受けている方はどれくらいいらっしゃいますか？

【花時計】登録のときはそこまでお聞きしていないので、わかりません。

【委員長】事業の中で、7月26日のプロオーケストラ経験者における室内楽というのがありますが、これはどういうものですか？

【花時計】東京フィルに以前在籍していた方が花時計のすぐ近くのマンションに住んでいて、その方が何年か前に花時計にいらして、ご自分からここでボランティアで演奏したいというお申し出をいただきました。その方に毎年お願いしていて、その方が現在の団員の方とかお知り合いを連れていらして、その方々の演奏です。

【委員長】では、次にくるみの木お願いします。

【くるみの木】出会い、語り、支え合いを理念に5年目を迎えました。今年は公募の年となっていて、続けたいということを表明していますが、4年間を振り返って、考え直すチャンスだと思ってプロジェクトを立ち上げています。

24年度は、延べ利用者数が1,000人ほど増えたということで、充実した時間を持てたと思っています。昨年度は今までもイベントもいろいろやってきていますが、なかなかできなかった念願だったくるみナイトを2回開催したり、1月のおとその日が意外と好評で、2年目くらいに偶然始めまして、それから毎年毎年皆さんと一緒に楽しく行っています。

プログラムで言いますと、2年くらい前にくるみ祭という周年行事で手話ソングをお見せしたことをきっかけに、昨年プログラムに取り入れたところ好評で、月1回では足りず、皆さん自主的に毎週練習を行っています。初めての方と今まで手話をなさっていた方も参加し、楽しい時間を過ごしています。

市報、ブログ、ホームページも作っていますが、今年はホームページを新しくすることができました。

中央コミセンと中央福祉の会と仲良くさせていただいて、そちらのお祭りにも参加しますし、地域の中で自分たちの役割が少しずつ見えてきたかなと思っています。ワーカーズどろりの中から、くるみの木のスタッフは27、8名に絞っていますが、みんなでいろいろなことを考えながら地域とのつながりを大事にしております。ただ、昨年、現場視察の際に色々なご意見をいただいていたしまして、レスパイトのこと、プログラムがマンネリ化しているのではないかと、自己満足的にならないように等しい意見をいただいていたのですが、今度の公募に向けて自分たちを見直すチャンスとして、いろいろ考えていきたいと思っています。

【委員】スタッフの方がほかの施設よりかなり多いようですが、どうやって集めているのですか？

【くるみの木】もともとワーカーズどんぐりは、地域で高齢者自立支援サービスということで訪問の事業をやっている中で、テンミリオンハウスの事業を採択していただいて、その年はくるみの木だけのスタッフとして募集をして10名くらい新しく入っていただきましたが、半年やっていく中で、やはりワーカーズどんぐりが運営しているくるみの木ということで、新しく入った方にもワーカーズにも入っていただいて、2年間からは全員ワーカーズどんぐりのメンバーということでやっています。おかげさまでくるみの木をしたこと、この4月から保育室もやっていますが、そういう施設を広げると人というのは集まるのだなと思っています。

【委員】くるみの木の事業の中で、家族介護の広場について教えてください。ほかの施設は家族介護支援の講座メインという形はありませんが、利用者の年齢からいうと、おそらくくるみの木は平均年齢が75.6歳なので、プログラム内容も予防的というかアクティブなものが多いと思いますが、家族介護広場の具体的な事業内容と施設見学もされているのでその点についてもお聞きしたいのが1点です。

くるみの木の地理的な特性もあって、利用者のエリアが在宅介護支援センター2つ、すなわち本町在宅介護支援センターと高齢者総合センター在宅介護支援センターがかぶってしまうと思いますが、利用者さんを在支別というか地区別に相談するようにされているのか、2つの在支との調整、連携をどうされているのか、具体的にあれば教えてください。

【くるみの木】介護家族の広場は丸3年になりますが、きっかけはNPO ネットの中で知り合った社会福祉士の方と話をしていた、介護家族という場を持てたら、私たちもいろいろな話ができたら良いなと思って始めました。ふた月に1回、2週目の土曜日で、あまり宣伝もしていませんが、だんだん広がってきて、ただし、そこには本当に自由に参加していただいて、本当に今自分が困っていることを赤裸々に話すチャンスということにしています。初めは在支の方などいろいろな方が見学に見えましたが、自分の職場などは一切なしでプライベートで参加するという形で、それぞれが介護をしている人という立場で話をしようということで始まっています。自由な雰囲気、雪の日など人数が少なかった日もありますが、ずっと続いています。その日によっていろいろな方が見えるので、その時その時でいろいろな話が出て参考になり、楽しくやっています。3年目に入ったところで有料老人ホームの話が出て、せっかく市にもいくつかあるので、市役所の近くの2施設に見学に行き、参考にとということで、そのあとの話も弾み、良い視察になったと思っています。

最初から2つの在支と別々にミーティングというか情報交換をしていました。24年度は初めて2つ一緒にすることができて、そこでは私たちが気になっている利用者の方のことを事前に在支にお知らせして、その方の情報をいただくという形で情報交換をしています。在支も直接すぐには行けないので、私たちのような施設が在支につないでいけるような役割ができるのではないかとということで良い会ができました。在支によってはそこまでは話せないなどもありましたが、今ではいろいろな情報交換ができるようになりました。テンミリオンハウスの役割もだんだんわかってくださって、1年に1回ですが、そこでは顔を合

わせているということで、地域に出て行ったときに良いことがありました。

【委員】スタッフの満足感はどんなところにありますか？4年経って初めに思っていたことと、実際に4年経った今と、良かったこと悪かったこと等があれば教えてください。

【くるみの木】毎日のように来てくださる方、プログラムを楽しみに週に1度来てくださる方、いろいろな方がいろいろな形でくるみに関わってくださっていますが、特に最近思ったのは、都外にお住まいだった方が、息子さん娘さんがこちらにいるということでお年を召してから武蔵野市にいらしてお知り合いも少ない中、さみしい時間を過ごしていた方が、高齢者支援課や在支の紹介でくるみの木を知って来てくださって、お知り合いが増え、今はとても充実しているというお話を伺った時に、自分たちのしていることが意義のあることだと感じています。毎日いろいろな小さなことをやる喜びがあります。たまには私たちの思いとは裏腹に、足りなかったことや反省することもあります。スタッフが13時で交代しますが、スタッフが変わっても同じような対応ができるように心がけたり、情報を共有できるように日々努力を行っていることで、皆さんに喜んでいただいているのではと思います。

【副委員長】利用者が1000人近く増えた要因は何ですか？

【くるみの木】登録者数はあまり変わっていないので、一人の方が何回もいらしていると思います。登録はしていないけれど、イベントに参加するという方も増えていると思います。

【副委員長】まだまだ受け入れ可能ですか？

【くるみ】1時間半やっていた体操を2部制するなどプログラムを工夫しています。今来ている方には続けていただきたいし、新しい方にもたくさん来ていただきたいということで、日々苦勞して努力をしています。

【副委員長】6,000人を超えているのは初めてですね。

【委員長】それでは時間になりました。ありがとうございました。

【委員長】月見路さんからお願いします。

【月見路】昨年度は代表と施設長を兼務していましたが、4月から体制が変わりまして、新施設長は藤田となり、会計は引き続き横山です。

あっという間の1年間だったというのが実感です。ようやく2年目を迎えました。昨年度と比較する資料がありませんので、この1年間のご報告をいたします。この1年間は、利用者さんとの関係性を重点的に運営を行いました。その中での実感としましては、地域の居場所として育ちつつあるのかなと思っております。その理由としては、利用者さんから朝お電話をたくさんいただきます。そのお電話が何かというと、「今日は午前中予定があるから体操をお休みします」、「ランチ遅れます」、「風邪をひいてるからお休みします」など、これは何かというと、スタッフに迷惑がかかるからではなくて、実際にお話をしてると電話しないと心配するのでしょうか？」といった言葉をいただいて、非常に嬉しかった。毎

日いらっしゃる男性の利用者の方が1週間風邪でお休みをされたときに、同居されていないご家族の方に電話をして月見路に電話を入れてくれとお願いしていて、1週間ぶりに出てきたときに「僕が休んだらみんなさみしいでしょ」と言ってくださって、本当に実感として嬉しかった。

ランチですが、食数が増えてきて、スタッフ分を減らして利用者用に回す日も出てきました。喫茶は地域の方々が買い物帰りや地域の若い方がちょっとした書き物に利用されていたり、病院に行くときにコーヒーやケーキは頼まないけれど、ハトムギ茶が無料で飲めるので、休憩に立ち寄っていただけるようになってきてありがたいと思っています。

その反面、立ち寄っただけで300円とられると思っている方がまだまだいらちゃって、これは以前の運営団体さんがそのような方式をとっていたようですが、プレゼンで子どもたちの異世代交流をやっていきたいとお伝えしたかと思いますが、子どもたちの施設になってしまったと思って足が遠のいてしまっている方もいるようです。月刊つきみじを通して地道に周知していきたいと思っています。

地域での挑戦活動としては、北コミの文化祭、さわやか祭り、東部フェスティバルなどに出てパネル展示をしたり、地域の福祉の会などにも出席しているので、引き続きアナウンスしていきたいと思っています。

会計面ですが、1年を通してどのくらいお金が動くのかというのが全く手探り状態でした。備品リストがなく、メモ程度のものはいただきましたが状態が全く分からなかったので、動かないものを廃棄するのにお金がかかってしまい、前半は節約節約で運営していました。年を越してからは、本当に必要なものを買え揃えることができるようになった。テレビが開始早々壊れてしまったので、歌の会用にプロジェクターとスクリーンを購入したり、防災用ヘルメット、念願のパソコンを購入することができました。前運営団体が補助金で購入したパソコンがあったようですが、引き継げなかったため、今パソコンが入って、人件費とか経費削減になりまして良かったと思っています。今日、月刊つきみじをお持ちしたのでご覧ください。地域の皆様のご支援でさまざまな単発講座を開くこともできまして、今後も地域と連携しながら運営したいと思っております。

**【委員】**利用者の方との関係づくりに力を入れたと伺いましたが、具体的にはどんなところを配慮して関係づくりに努められたのか、また、月刊つきみじはワークセンター大地の方が配布しているということですが、これは地域全戸配布でしょうか？配布の場所も教えていただけますか？

**【月見路】**1つめですが、10年のあと引き継いだので、私たちの方が新参者だったわけで、スタッフみんなでも、まず来られた利用者さんには必ずスタッフ全員がその利用者さんと1回はお話ししようという心がけをしました。間違えてもいいからお名前をお呼びしよう、笑顔で接しようということを重点的に行いました。だんだん打ち解けて冗談も言うようになっていきました。まずは名前を呼ぶ、1回はお話ししようということでした。

月刊つきみじですが、昨年度は3,000部配布いたしました。月見路から半径500メートル

ルを重点的に配布すると当面決めていましたので、北町と東町、本町を重点的に配布しました。今年度は予算を増やして 3,500 部にしましたので、もう少し配布できるのではないかと考えています。

【委員】テンミリオンハウスを5年ごとに更新するというのを平成21年から開始させていただきましたが、当初は非常に評判が悪かった。月見路さんは新しい出発をされたと思いますが、運営団体が交代することによって、大きな問題点になること、ご苦労されたことがあればお話しいただきたい。

【月見路】プレゼンのときに計画していたことがあり、1月からボランティアで入らせていただいて、利用者さんとの顔つなぎができたらと提案をさせていただいたんですが、前運営団体さんに受け入れていただけず、利用者さんの引き継ぎが一切なく、利用登録者名簿も個人情報関係で引き継ぎがなかったの、どなたの情報もわからないまま始まりました。この方は10年間来所されている、どんなプログラムをやっていたら、こういう面でケアが必要などがなかったので、4月にゼロから初対面という形で、本当に苦労しました。ご利用者さんは当然知っているだろう、引き継いでいるだろうと思われるところが辛かった。プログラムもほぼ前の講師の方を引き継いだので、やり方もすべて教えていただきながら、相談しながらでしたので、3ヶ月くらいかかりました。

備品リストもなかったの、一覧ではもらいましたが、いざ運営を始めてみたらあるはずのものがなかった、壊れているものがあつた、廃棄されていけば廃棄処分をしないで経費がかからなかった。一番困ったのが、前の利用者さんが寄付した毛糸とか布があつたはずなのに廃棄されていた。お掃除のごたごたなの利用者さんのマイカップ、マイスリッパがなかったとか、細かいことですが苦労しました。

【委員】ランチを手作りするというのですが、スタッフの方の作業や利用者の評判はいかがですか？

【月見路】4月に始まる前にコミセンを回りまして、調理の10食を作ってみて、スタッフで試食をして、試作はやっておりました。いざ10食作るようになると、12月から調理実習をしていました。社協の方や市役所の方に来ていただいたり、4月に入ってから試行錯誤をしながら、スタッフの中にも慣れている慣れていないもあるので苦労はしましたが、今は楽しみにしてくださっている方も多く、食数が増えてきているのかなと思っております。

【委員長】では、あおばの方をお願いします。

【あおば】24年度入ってからかなり例年と違ったのは、預かりがかなり増えてきて、そんな中、耐震の工事をどうするかという話が出てきて、9月に2週間ほど休館して耐震工事をしていただきました。その2週間休んで耐震工事をしたことでみなさんとても安心されたのか、さらに預かり、広場事業の人数が増えてきて、毎日があわただしくあつという間に終わるといふ日々を過ごしています。24年度で何が変わってきたかという、まず障害者の登録が少し増えてきています。重い障害ではなく軽い障害を持ったお子さんで、預



かってもらえる場所がない、軽いということであおばに相談にお見えになって、お子さんの様子を見させていただいて、こちらでお預かりするケースが増えてきています。

それともう一つ、武蔵野市の桜堤の方で大きな建物が増えて、北町にあるんですが、桜堤、境の方からの登録も増えてきています。わざわざ車でお見えになって、いままで近くにムーパークがあったのがなくなってしまい、遊びにいらした方が車を止める場所がない。近くにタイムズがいくつかありますが、そこもうまっている状態で、登録のときやお預けのときに瞬間的に停めておく場所は園内にありますが、遊んでいる間停めておく場所がない、というのが困りました。

相談の部分ですが、かなりお母さまたちが切羽詰まった相談をされる方が増えてきました。今まで電話での相談が多かったと報告をしていましたが、電話の向こうですでに泣いているという方が増えてきました。また、あひるで遊びに来ていて、広場で遊んでいる間に子どもの笑顔を見たり、スタッフとの対応でほっとしてしまうのか、涙を流して泣き出してしまいそのまま相談というケースも増えてきています。これが、今のあおばの現状です。

25年の9月までということですが、耐震工事もしましたし、許されることならもう少し伸ばしていただければと思います。このような利用者の方が増えてきていることから、9月でなくしてしまうのは、次につながるところが今ないので、次につながるところまでは何とか利用者のためにも続けていきたいと思っています。

【委員】子どもの預かり事業とか子育て関係は、武蔵野市はちょっと弱いのでしょうか？昨年から今年にかけて、桜野小学校で生徒が100人増えています。ということは、兄弟もたくさん増えているということで、あの辺からそういうのを見てくれるところに行かざるを得ないということだと思います。団地の中にもそういう場所を開設しているところもありますが、おそらくキャパシティの問題で、そういう状況で9月末となると、あとはどこへ行けばいいんでしょう、状況で、その辺は市にお伺いしなければいけないんでしょうが、そういうことが途絶えてしまうと危機的状況になるのではという気がするのですがいかがでしょうか？

【委員】私も続けてほしいと思っています。とっても良い事業で、近くに住んでいますが、とても助かっているという声も聞いていますし、建物についてもほかの方法もあるのかなと、全く考えられないことではないような気がするので、ここ2年位特に定着してきたと思いますし、続けていただく方向で考えていただけるといいなと思いました。

在宅介護支援センターとの情報交換というのはあおばにはそぐわないので、0123とか関連のあるところとの情報交換をお願いしたい。

【委員】全体的な子ども子育て支援策については決して充実していないわけではないと思います。ただ、桜堤地区につきましては、いろいろなファクターがあって、非常に大型のマンションが建設され、ファミリー層が流入しています。そのおかげで昭和39年以来武蔵野市の人口は13万人台で推移してまいりましたが、この5月1日で14万人台を

突破しましたので、ある意味では、高齢化が進む中でお子さんが増えているということ、あるいは子育て世代が増えているということは、武蔵野市にとっては新しいニーズであって喜ばしいことだと思っています。ただ、予定をしていましたこども園が建設会社の不渡り倒産という問題もあったり、0123 の武蔵野市ならではの子育て施設が吉祥寺と中央公園まではありますが西部地区にはないということもあって、境、桜堤地区には子供が一番増えているにも関わらず、児童館しかないということもあって、そういうニーズの方が求めたあおばまで来ていらっしゃるのかなと思います。今後待機児童対策にも力を入れておりますし、井之頭小学校の隣の泉幼稚園跡地も新たな子育て施設として検討しておりますので、今後はニーズに応じて子育て施策に関しても総合的見直しをしながら充実を図っていく方向ですのでご理解を賜りたい。

【副委員長】利用者さんがずいぶん増えている、特に3月は800人台で、その分スタッフの労働が過密になっているというか負担が大きいと思いますが、人を増やすといった対応は昨年度はされたのでしょうか？

【あおば】スタッフとしては9名しか置けないものですから、足りない分については、母体のひまわりママさんから足りない時間帯、お子さんの年齢に応じて応援に来てもらうという形になっています。

それから、先ほど言い忘れましたが、もう一つ増えているのが、早朝、夜間、宿泊の3つがかなり増えています。

【副委員長】その原因はわかりますか？

【あおば】やはりお仕事をされる方が増えてきたということ、女性も男性と同じ時間で仕事をしなくてはならず、早朝から出る方、残業される方、宿泊については、ひとり親が自分が宿泊になると子どもの行き場がなくなる、兄弟が入院してしまうって他の兄弟の行き場がなくなる、親が入院してしまっって子どもたちの行き場がなくなるなど緊急性の早朝、夜間、宿泊がかなり増えてきています。

【副委員長】この中に宿泊を反映した数字はありますか？

【あおば】あおば独自の運営事業実績報告に入っています。

【副委員長】数字を教えてくださいませんか？

【あおば】宿泊は年間16名、早朝保育は213名、夜間保育は411名となっています。宿泊は昨年度の倍となっています。

【委員】あおばの報告書のフォーマットについては、在宅介護支援センターよりも子ども家庭児童センターとか児童相談所との連携等、事務局でも再検討いたします。

【委員】事業の継続については、何らかの方向で考えてほしいと思います。待機児の問題もありましたが、保育園ではなく、小規模多機能的なニーズが増えていると思いますが、実感としてはいかがですか？

【あおば】本体がひまわりママで独自事業をしていて、病後児保育ラポールとひまわり保育室、グループ保育室を運営しています。

やはり就労を希望される保護者の方がとても多く、運営団体にもご希望で入会されている方が多いです。私たちは送迎保育ということで保育園からのお迎え等を主にやることになっています。逆に、保育からの要請によりグループ保育室を今は2か所ありますが、もう1か所という要請もありますので、そのところで待機児童に伝えていきたいと思っています。待機児童の点では、定員10名の保育施設ですので3カ所で30名しか救えない。あおばの制度としては就労では週2日しか利用できないという限定を設けて、それ以外に目的としては一時預かりということでリフレッシュ等、利用者さんの使い方も選択ができるようになっています。性格が違うということです。

【委員長】では時間になりましたので、第2グループのヒアリングを終わります。本日はありがとうございました。

## **(2) 平成25年度運営団体公募について**

【委員長】議事の4番目の運営団体の公募について、事務局からお願いします。

【事務局】資料2をご覧ください。平成25年度の運営団体の公募についてですが、今年度は公募対象施設、くるみの木を予定しています。公募スケジュールについては、スケジュール案に記載してありますが、7月1日の市報に掲載しまして公募を開始いたします。募集期間は3か月間、9月30日までとしております。10月に書類審査を行い、この委員会については10月に中旬から11月中旬くらいまでに開催し、応募団体のヒアリングを行っていただければと思っています。そして、11月以降に運営団体の決定をしまいたいと思っています。応募資格については、従来どおり昨年12月の委員会で確認していただきました内容で進めていきたいと思っています。それ以外の内容については従来通り進めていきたいと思えます。

【委員長】何かご質問はございますか？では、これで進めていただきたいと思います。では本日の会議はこれで終了します。

## 7 閉会